# 環境福祉学会 News Letter 14

 第5回年次大会プログラムなど
 1

 第13回事例研究会①
 2

 第13回事例研究会②
 3

 年次大会研究発表分科会場・演題
 4

 組織及び役員一覧・事務局だより
 4

目 次

環境福祉学会 事務局 東京都港区南麻布5-16-6 コウセイ広尾3F 創造学園大学 東京本部内

創造学園大学 東京本部内 TEL.03-3447-3321 FAX.03-3447-3681 http://www.kankyofukushi.jp E-mail:info@kankyofukushi.jp

### 第5回年次大会(総会) いよいよ川崎で開催!



# 「環境福祉による産業と仕事の創出」 ~明日へのまちの発展の礎に~



日時: 平成21年11月8日(日) 10:00~17:00

会場: ホテルケイエスピー

#### プログラム:

1. 特別講演:阿部 孝夫(川崎市長)

2. 基調講演:潮谷 義子(前熊本県知事/長崎国際大学学長)

3. パネルデスカッション

テーマ:「環境福祉による産業と仕事の創出」 コーディネーター/コメンテーター: 炭谷 茂(環境福祉学会副会長) パネリスト・演題:

- ① 小豆沢 茂 (日立製作所・執行役常務研究開発本部長) 「日立グループの環境戦略と福祉への取組み」
- ② 花澤 義和 (NPO法人エコリンク21理事長/三協興産・代表取締役) 「環境事業からの福祉へのアプローチ」
- ③ 高山 和彦(社会福祉法人同愛会理事長・横浜市) 「職あっての"じりつ"」
- ④ 桑山 和子 (NPO法人たんぽぽ会長・飯能市) 「21世紀のキーワード 農業」

#### スケジュール:

10:00 ~ 12:00 一般研究発表 (3会場18題 演題名は4ページに) 12:00 ~ 13:00 総 会 (食事と同時に行います)

 $13:00 \sim 13:10$  開 会 挨 拶 炭谷 茂 (大会委員長)

13:10 ~ 13:50 特別講演 阿部孝夫 (川崎市長)

13:50 ~ 14:30 基調講演 潮谷義子(前熊本県知事/長崎国際大学学長)

「未来の鍵は…」

14:30 ~ 17:00 パネルデスカッション

参加費用: 大会参加費 5,000円(昼食代含む) 懇親会参加費 5,000円

#### 「授産施設と発泡スチロールのリサイクル」

株式会社 パナ・ケミカル 専務取締役 犬飼 健太郎

私どもは発泡スチロールの処理機を販売すると同時に、そのリサイクルシステムを提案・提供し、それで出来上がってくるブロック化された原料を買い戻して販売するということで、30年間地道にやってきた会社です。30年前に築地の市場から始めた発泡スチロールのリサイクルは、今では全国の中央卸売市場をはじめ、地方市場、スーパーマーケット、デパート、処理業者さんなど、1700カ所ぐらいに広がっており、そこでリサイクルされたものは、すべてプラスチックの再生品となっています。

この活動により、第1回リサイクル推進協議会会長賞やウェステック大賞、日刊工業新聞の賞を頂いたほか、日経新聞や「週刊ダイヤモンド」、テレビ東京の「ワールドビジネスサテライト」でも紹介されました。

その中で、私どもは10年ほど前から授産施設への取組を進めてきており、今は4カ所の授産施設に私どもの設備が納入され、運営されています。

現状の授産施設は、作業業種が制限されることから、下請作業であったり、一過性のアイデアだったりということが多いわけですが、この発泡スチロールのリサイクルは、五つの点で優れていると思います。一つは、もう34年間ずっと仕組みを回してきたという継続性と、全国1700カ所以上、月3000tの回収があって、マーケットの約8割をして、発泡スチロールは非常に軽いので軽です。そして、発泡スチロールは非常に軽いので軽作業です。加えて、将来性というモデルでは、リサイクルと福祉のようなところで、まだまだ必要があると思います。そして、高いわけではありませんが確実に収益が上がること、自社製品なので値決めができるということです。

今非常にうまくいっている例として、宮城県の 塩釜にあるさくら学園という授産施設が挙げられ ます。ここでは、機械代500万円と建屋などは助 成金で賄われました。

授産施設での採算を幾つかのパターンで試算してみたところ、まず、機械代には補助金が出ず、施設で購入して少しずつリースで返していくような形で、できた原料の単価を40円、処理費をキロ単価100円ぐらいで計算した場合、1tぐらいで採



犬飼 健太郎 氏

算が取れます。これは大体小さなスーパー一つという感じです。次に処理機の補助が出た場合、これがさくら~学園のパターンですが、3人の作業員を時給700円で雇ったと仮定して、採算ラインは500kgと、本当に小ぶりのスーパーでも採算が合ってきます。

つまり、地域の協力さえあれば採算性が見込めるわけです。地域の協力というのは、発泡スチロールを授産施設に持ってきてもらうとか、やはり30年間ずっとわれわれがやっていて、割と成熟した市場なので、既に誰かが商売をしている場合が多いため、そういうところに協力してもらって一部を委託してもらうというようなことです。

当然、産業廃棄物の中間処理施設の資格取得など、授産施設側の努力も必要ですが、われわれとしては機械の提案や安価での提供、買取システム構築のお手伝いのほか、地元の産廃業者に一緒にお願いに行ったりもしています。10年前よりも認知度が高まり、非常に協力的になってきています。

ステップとしては、まずは補助金の申請や中間 処理の取得などが必要です。それから排出先への 営業。設備の購入は機械一つで、あとは置場があ って作業員がいればすぐにできます。当然、作業 の指導や再生品の売却は、われわれが指導させて いただきます。もし詳しい資料が必要であればご 一報いただければお送りしますし、ご質問があれ ばお電話をいただければと思います。

#### 「持続可能な開発のための教育、 コミュニティビジネスなど最近の環境施策の動向」

環境省 環境教育推進室室長補佐 中島 恵理

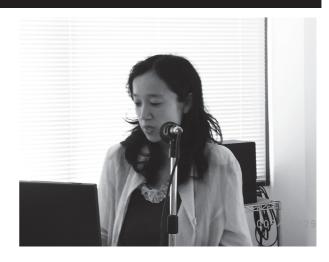
環境省では、1993年に環境基本法が制定されて 以降、地域での環境教育を進める取組の支援な ど、さまざまな取組を展開してきました。2005年 からは、「国連持続可能な開発のための教育の10 年」という国際的なプロジェクトの開始に合わ せ、これまで自然や公害など、いわゆる環境問題 を中心に扱ってきたところから、経済・社会の問 題も含めて、統合的な形で教育を進めていくよう な取組を始めている状況です。

ESD (Education for Sustainable Development) とは、2002年に開催されたヨハネスブルグサミットで小泉首相が提案した、持続可能な社会づくりに参画する「人」と、「人と人のつながり」を地域全体で共に育む活動です。行政、企業、学校、大学、市民など、さまざまな関係者が連携して、環境だけでなく、多文化理解、人権、平和、開発、社会福祉の問題などを一緒になって考え、より良い地域をつくっていくための人づくりをしていこうというビジョンを描いています。

日本では、関係省庁連絡会議を設置して、日本における10年間の実施計画を策定しており、当初の平成18~20年度は、地域の行政、教育機関、NGOの関係者が一緒になって、地域レベルでESDを推進していくような活動の支援をしてきました。

全国14地域で展開されたモデル事業の一つ、西 淀川は、大気汚染公害が深刻であったところです が、農地や空き地などを使って菜の花を栽培し、 そこから取れる油でBDFを作っていくという「菜 の花プロジェクト」に取り組みました。こうした 取組をより広げていくために、今年度からESD実 施団体登録制度の討を始めています。地域にある 福祉、防災、開発、国際協力など、さまざまな取 組を登録していただいて、登録された団体間の学 びの場、出会いの場をつくっていくことによっ て、地域の関係主体が連携した取組を支援できな いかと考えています。

また、環境省ではソーシャルビジネスの支援も始めています。現状、多くの環境NGOは行政の助成金やボランティアに依存していますが、今後は何らかの形で事業をして一定の収入を得る、また、環境だけでなく経済・社会の問題解決に取り



中島 恵理 氏

組むビジネススタイルとして発展していくことが 必要ではないかとの考えからです。

今回、モデル事業として、全国規模で棚田の活性化を応援している団体が静岡県松崎町で行う音楽と棚田を結び付ける事業や、会員から寄付を集めて湿原を買い取って保全している霧多布湿原トラストという北海道の団体が、何らかのビジネスをして、その収益を霧多布湿原の保全に使っていこうという事業など、7事業を採択しました。

さらに、ソーシャルビジネスの支援としてもう 一つ、ソーシャル・エコビジネス賞というものを 昨年度から創設しています。昨年はヨコタ東北と いうプラスチックリサイクルをしている団体が作 業所などと連携して、環境と福祉、教育も融合す るような取組をしているところが受賞していま す。

新しい取組は、異分野の関係者の連携の中から 生み出されてきます。身の丈に合った草の根の取 組の中に、非常に革新性のある取組が出てきて、 精神的に豊かなライフスタイルを実現し、結果と してソーシャルビジネスという新しいセクターを 生み出すことにつながっていく。そういったもの が環境保全だけでなく、地域の活性化、地域づく り、地域産業の活性化につながりつつ、あらゆる 人々の社会参加、自己実現につながっていく。そ のような流れを環境施策の中でも推進していきた いと思っていますし、ぜひ環境福祉学会の皆さま とも連携させていただいて、より良い取組ができ ればと思っています。

#### 第5回年次大会研究発表分科会場·演題

#### 第 1 分科会場 環境関係

- ① 福祉施設における太陽光発電導入に関する考察 ~福岡県久留米市における環境税に対する意識調査から~
- ② コミュニティバスの環境福祉効果と普及の課題 ~秦野市のケースを中心に~
- ③ 環境と福祉を統合した持続可能な社会づくりに関する研究 ~顕在化する地球環境問題と持続可能な社会論~
- ④ ESDにおける2つの事例 ~おとなとこどもの地域参画の可能性を探る~
- ⑤ 高尾「100年の森」プロジェクト ~企業が創る森~
- ⑥ 環境問題を科学するために

#### 第2分科会場

福祉関係

- ① 「介護旅行」にみる超高齢者の行動欲求~都市高齢者と地域の健康資源を結ぶ「トラベルヘルパー」の役割~
- ② 街中の設備を利用した転倒予防
- ③ マウスの排尿活動に対する環境要因の影響
- ④ アートセラピーの一環としての「ぬり絵セラピー」: 考察と実践
- ⑤ 視覚障害者による国土環境モニタリング調査実現の可能性 ~鳥取県奥大山地域における社会福祉・環境保全の統合にむけた事例報告~
- ⑥ GardeNursing (ガーデナーシング) ~園芸を機軸とした新看護学の構想~

#### 第3分科会場 その他

- ① 割り箸から考える林業の活性化と環境福祉
- ② 福祉発 異業種コーディネートによる新サービス・雇用・職場づくり
- ③ 吸水紐を用いた植物の簡易栽培法3 高齢者への癒し効果の検討
- ④ 吸水紐を用いた植物の簡易栽培法 4 初心者による自動給水での栽培
- ⑤ 食のリスクを考える
- ⑥ 次亜塩素酸水による福祉施設での新型インフレンザ防御策

(都合により変更する場合があります。)

#### ■ 環境福祉学会組織及び役員一覧

会 長:江草 安彦 社会福祉法人旭川荘名誉理事長/川崎医療福祉大学名誉学長

副 会 長:鴨下 重彦 (財)小児医学研究振興財団理事長/東京大学名誉教授

炭谷 茂 元環境事務次官/社会福祉法人恩賜財団済生会理事長

堀越 哲二 堀越学園理事長/創造学園大学学長

伊藤 達雄 社団法人環境創造研究センター理事長/名古屋産業大学名誉学長

理 事:松寿 庶 社会福祉法人全国社会福祉協議会常務理事

波田 幸夫 環境新聞社代表取締役会長兼社長

長田 逸平 財団法人日本生産性本部主席調査役

藤田 八暉 久留米大学教授

土井 康晴 社団法人生活福祉研究機構専務理事

泉谷 直木 アサヒビール株式会社常務取締役

安川 緑 金沢大学医薬保健研究域保健学系看護科学領域准教授

児玉 剛則 社団法人環境創造研究センター専務理事

寺田 清美 東京成徳短期大学教授

監事:永井 伸一 獨協中学·高等学校校長/獨協医科大学名誉教授

平野 寛 杏林大学名誉教授

事務局長:小峰 且也 環境新聞社専務取締役

事 務 局:酒井 剛 環境新聞社企画事業部部長 干 豊 創造学園大学東京本部所長

## 事務局だより

環境福祉学会の第5回年次大会のテーマは、 「環境福祉による産業と仕事の創出」です。世 界は、昨年のリーマンショック後の深刻な経済 不況下にあり、わが国でも失業者の増大、企業 は業績不振に苦しんでいます。民主党中心の新 政権は、環境や福祉の充実を最重点課題に掲げ ています。この様なときこそ、環境福祉による 仕事の創出、企業の活性化、明日のまちづくり に向けた発信をするときです。ぜひ、身近な 方々に、今大会への参加をお勧めください.▼ 川崎市には環境福祉の先進企業があります。ホ タテの貝殻をリサイクルしたダストレスチョー クなどを製造し、従業員の7割以上が知的障害 者という日本理化学工業です。大山泰弘会長 は、「人間に幸せは人のために働いてこそ得ら れる」という。商売繁盛の神様「えびす(蛭子) 様」は、足のない障害者で、日本は古来、障害 者を神様として祀る共生社会を生活の知恵として 築いており、環境福祉に通じると言っています。